

言語教育研究科

科目履修の方法

前期課程 英語教育学専攻・日本語教育学専攻

- ①博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、各教育研究分野の修得すべき単位数を満たすと同時に、所定の授業科目について30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
- ②前項の30単位以上のほかに、各専攻の教育研究分野毎の「特別演習」による論文指導を含むものとする。

<英語教育学専攻>

| 教育研究分野 | 修得すべき単位数 |
|--------------|-----------|
| 英語教育学 | 6単位以上 |
| 言語学・英語学 | 6単位以上 |
| 英語コミュニケーション学 | 6単位以上 |
| 各分野共通※ | 2単位以上 |
| 計 | 30単位 |
| 【必修】特別演習 | (単位の付与なし) |

<日本語教育学専攻>

| 教育研究分野 | 修得すべき単位数 |
|----------|-----------|
| 言語学・日本語学 | 6単位以上 |
| 日本語教育 | 6単位以上 |
| 各分野共通※ | 6単位以上 |
| 計 | 30単位 |
| 【必修】特別演習 | (単位の付与なし) |

※各分野共通科目はp. 6を参照すること。

- ③他専攻の授業科目は、修得すべき単位数の30単位のうち10単位までを認め、これを超える単位は修得すべき単位数には含まないものとする。
- ④他研究科の授業科目は、修得すべき単位数の30単位のうち2単位までを認め、これを超える単位は修得すべき単位数には含まないものとする。

後期課程 言語教育学専攻

- ①博士の学位授与要件は、博士後期課程に原則として3年以上在学し、所定の授業科目10単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、外国語検定試験に合格し、中間発表会を含む2本以上の業績を有し、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。なお、学生は、特定の研究課題に則した問題設定、研究方法、文献検索、分析等の調査研究を行い、この間、指導教員から調査研究の全般にわたって助言、指導を受け、研究成果を提出し審査を受けるものとする。
- ②履修科目の登録、試験、成績の評価、学位論文および最終試験に関しては、博士前期課程を準用する。

試験について

授業科目の試験は、毎学期末に筆記、口頭試験、研究報告もしくはこれらの併用によって行います。

- (1) 前項のほか、研究科委員会が必要と認めた場合、追試験が行われます。
- (2) 授業に2/3（3分の2）以上の出席がなければ受験資格は与えられません。
- (3) 学位論文および最終試験に関する事項は拓殖大学学位規程並びに同細則の定めるところによります。

成績評価について

- (1) 成績は、科目担当教員が試験（筆記、口頭、実技等）、レポート、授業参加状況（出席・発表等）を総合的に判断して評価します。評価基準は、科目担当教員によって異なりますので、講義要項に記載されている成績評価の方法を参照するか、直接科目担当教員に確認してください。
- (2) 成績は、原則として素点（0～100）で発表されます。
ただし、次のような表示で発表される場合もあります。
[---] 印：未受験（試験等を未受験の場合）
[XXX] 印：評価に値せず（出席不良等で評価に値しない場合）
- (3) 成績の最終評価は、S・A・B・C・Fで表記します。評価基準は次のとおりです。

| 合 否 | 合 格 (単位修得) | | | | 不 合 格 ※ |
|------|------------|--------|--------|--------|-------------------|
| 素 点 | 100～90点 | 89～80点 | 79～70点 | 69～60点 | 59～0点・[---]・[XXX] |
| 最終評価 | S | A | B | C | F |

※不合格となった科目は、次年度以降、学業成績表の「不合格科目欄」に記載されます。

- (4) 一部の通年科目は、前期に成績発表を行わず、後期に通年評価としての点数を発表することがあります。前期に発表されない場合は、前期の成績欄は「空欄」表示になります。
- (5) 不合格科目欄に記載された科目は、原則として、次年度以降再履修し、単位修得すると抹消されます（科目担当教員が異なっても構いません）。